

2024

中野区新庁舎
開庁記念

中野 アートブック

Art Book



Art Book



アンケートへのご協力をお願いいたします。

発行：中野区 制作：株式会社JTBコミュニケーションデザイン



「art」がつなぐ、人と想い

あなたの日常とともに、対話する、語り続けられる「art」
さまざまな感情の交差点で生まれた創造の熱は、
静かに、ときに激しくふくらみ、まちに広がっていく。

歓び、つながり、創造する中野の未来へ



伝統文化と芸術活動が息づき、お笑い、演劇、ライブ・コンサートなどのエンタメがアクティブなまち・中野で、2024年5月7日、区役所新庁舎がオープンしました。

まち全体に、
遊び心あふれる文化芸術を展開する

新庁舎は、アートや情報の発信拠点であるとともに、さまざまな交流の場として、このビジョンを体現する、皆さんの空間となります。

「みんながつながり、何かがはじまる」
この空間を楽しむためのヒントをまとめました。



新庁舎解説

新庁舎1階は、文化・芸術の発信拠点！
身边に文化・芸術を感じられる場所として、アート作品の展示やイベントを開催します。



シェアノマ

大人も子どもも、楽しさも経験も、みんなでシェアする場所。ワークショップなどを開催できます。



ナカノのナカニワ

エスカレーター前のアート展示・情報発信スペース。展示されるアート作品は定期的に入れ替え予定です。



ナカノバ

みんなが使えるイベントスペース。イベント等の開催がないときは、交流、憩いの場として開放します。

区民利用会議室



ミーティングルームA



ミーティングルームB

壁面には、原画を反転した大きな一枚絵が!
丸倫徳「SOKODOKO-Nakano」

壁面には、原画を反転した大きな一枚絵が!
佐藤 朱美「助け合い」

1F



まだあります！

アート作品

3階キッズスペース、6階会議室でもアート壁画に出会えます！

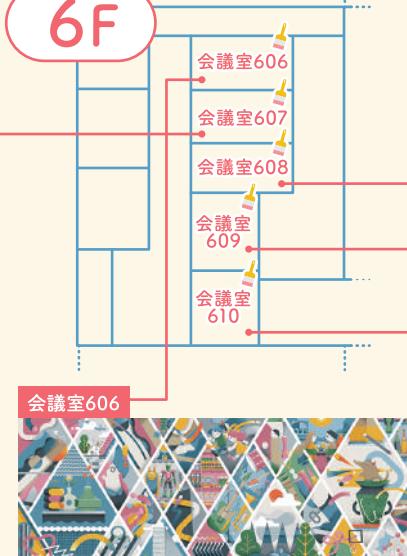
キッズスペース



3F

お子さんと一緒に来庁しやすいように設置しました。木のおもちゃや絵本があります。開庁時は真っ白な壁紙ですが、開庁記念イベントを開催する5月11日・12日のワークショップで、みんなで壁画に絵を描きます！

6F



会議室608



国保幸宏「ビー玉」「湖」「ひつじ」「ショートケーキ」

会議室609



小田佑二「Sketch」

会議室606



omi「交錯する街」

会議室607



WHOLE9「風に花」

会議室610



emi tanaji「温故知新」

区長×アーティスト

意見交換

新庁舎1階にあるイベントスペース「ナカノバ」やワークショップスペース「シェアノマ」など区民の交流スペースを、中野区にゆかりのあるアーティスト（舞台関係者）が視察し、その後、区長との意見交換会を開催。視察後の率直な感想や、表現者視点での施設活用のアドバイスなどをいただきました。



大型モニターが配された開放的なイベントスペース

区長（以下、区）：市役所は英語でシティホール（City Hall）と言い、市民が利用する場という意味。新庁舎も、気軽に利用できる区民の交流や表現の場にしていきたいと思っています。「ナカノバ」はイベントスペースなのですが、イベントを行っていないときは、自由に過ごせるスペースにもなっているんですよ。

寺戸さん（以下、寺）：「ナカノバ」の西側のガラスパーテーションが、開放式になっているのは驚きました。

区：外の広場とも繋がっていて、中と外、一体で使える構造になっています。庁舎でこのような設計は珍しいかもしれませんね。

寺：北側のパーテーションを閉めれば、個室として利用できるのもいいですね。

“見える”“見せる” ワークショップスペースは画期的

区：一年を通してワークショップが行える「シェアノマ」は、ガラス張りで周りに見えることを意識した造りにしています。

寺：ここで芝居もできそうですし、公開ワークショップはおもしろいかも。ふらっと立ち寄りやすいですね。

沙：会議室を借りてのワークショップですと、どんな活動をしているのか外からはわからないですからね。ガラス張りなので、「何をやっているのかな?」「楽しそう！」など、活動が見えることで繋がりが生まれるきっかけになり、ハードルも下がります。このようなワークショップスペースは画期的ですね。あとは鏡付きパーテーションやマットがあるといいと思いました。ヨガやダンス、ストレッチ教室もできるなど、活用の幅が広がります。



寺：アーティストを呼んでワークショップは「シェアノマ」で、イベントは「ナカノバ」で行うなどの連携も図ることができそうです。

沙：それに作品展示を「ナカノバ」で言えば、それぞれのスペースを最大限に活用できていかもしませんね。

区：そうなんです。「ナカノバ」や「シェアノマ」などとも連携し、いろいろなことができるのがこの庁舎の強み。区役所に用事のある方や、四季の森公園など近くに来た方がここに立ち寄り、庁舎でこういう文化的なことをやっているのだと感じてもらえば、区に対して愛着を持っていただけるのではと。「庁舎でこんなことやっているの!？」「ここって区役所なの!？」と世の中を驚かせ、ここから中野区の文化を発信していきたいという想いがあるんですね。そのために、これらのスペースを存分に活用していきたいし、存分に使っていただけるようより良くしていきたいと思っています。



沙央くらま（さおう・くらま）

中野区出身。2001年宝塚歌劇団に入団。老若男女、幅広い役柄を見事に演じきる高い演技力と歌唱力を持つ男役スターとして活躍。2018年2月に惜しまれつつも退団し、現在は多才派女優として、ラジオ、映画等で活躍中。2023年より中野区特別観光レポーター、中野区観光協会でも活動を開始。



寺戸 隆之（てらど・たかゆき）

演出家／脚本家。ノアオモチャバコ主宰。繊細な空間造形と身体の運動による空間変化を持ち味に、創作戯曲や古典戯曲のリ・クリエーションを手掛ける。2019年からは中野で4つの小劇場群、ポケットスクエアの支配人を務める。



中野区

アートプロジェクト

紹介

◆ アール・ブリュット／NAKANO街中まるごと美術館！



地域商店街と社会福祉法人愛成会が連携し、中野のまちでアール・ブリュット*の魅力を伝えるアートイベントを、2010年から行っています。それが「NAKANO街中まるごと美術館！」です。「まち」「文化芸術」「福祉」が三位一体となったこのイベントは、人々の日常にアール・ブリュット作品が溶け込む空間をつくり、多様な表現や価値観にふれる機会を創出しています。また、愛成会が日本側の事務局となり、イギリス、スイス、フランス、オランダなどのヨーロッパを中心に海外と連携した国際交流事業も行っています。2025年には日本とベルギーの国際交流展も予定しており、アール・ブリュットの魅力を中野から世界へ発信していきます。

*アール・ブリュットとは…フランスの画家、ジャン・デュ・ビュッフェ（1901-1985）が提唱した概念。専門的な美術教育を受けていない人などが、内なる衝動から独自の表現方法によって生み出す芸術作品を指し、日本語で「生きる（き）」芸術」と訳されます。



詳しくはこちら！



WEBサイト



Instagram

①「NAKANO街中まるごと美術館！」2024年度の開催の様子

②海外での展覧会の様子

アール・ブリュット作品は、新庁舎内の区民利用会議室や会議室608の壁面にも登場（☞P3・4）

区内の文化・芸術活動の中でも、まちを歩くと目に入る屋外アートは、日常に溶け込みつつも、私たちの感性を刺激します。ここでは、象徴的な2つのプロジェクトをピックアップしてご紹介します。

◆ 中野ミューラルプロジェクト



2023年4月、中野駅の東西連絡通路に現れた山吹色の巨大壁画（ミューラル）。中野のまちのモチーフが詰まったこの壁画は、日常の中で芸術にふれる、をテーマにした「中野ミューラルプロジェクト」の一環で描かれたものです。

元々2021年に、ヌリーズ株式会社、大黒プロダクション等が提案し、制作した壁画（中野駅北口壁面、旧鷺宮小学校体育館）が好評を博し、規模を拡大。区民によるワークショップ等も経て、現在では計7カ所にあります。

スポットごとに異なるアーティストが手掛け、魅力もさまざま。壁画巡りを楽しんでみてください！



①中野駅東西連絡通路の「SOKODOKO - Nakano -」（作：九倫徳）は、新庁舎内の区民利用会議室の壁面にも登場（☞P3）

②③「なかのZERO」ではワークショップを行い、参加者は好きな場所のタイルを塗装

アート作品紹介

「ナカノのナカニワ」では、パーゴラ（木材で組んだ格子状の棚）を利用した、常設展示と企画展示をおこないます。
ナカニワでアートを体感しませんか。

Artist

赤松加奈

Kana Akamatsu

[常設展示]

赤松さんの展示作品は、合計で3点。

5月7日の開庁直後には「緑の昼下がり」(2018)、そして開庁記念イベントを開催する同11日には、ナカノバにてワークショップを開催し、中野のまちのモチーフを思い出として残す作品をみんなで作り、追加で展示します。

同25日には再びワークショップを開催し、中野の魅力を詰め込んだカラージュ作品を制作。その内容・作品を基にした新作を、7月下旬以降に展示予定です。入れ替わる展示作品を見に、足を運んでください。

Profile

2015年京都造形芸術大学院修了。自然の中にあるとりとめもない生と死を抽象的かつ色彩豊かに描く。2019年群馬青年ビエンナーレ最優秀賞をはじめとし、様々な公募展で入賞、入選を果たす。



「ポケットの中のジャングル」(2020)

Artist

西尾美也

Yoshinari Nishio

[企画展示]

14枚もの色とりどりの大きな花びら。西尾さんの作品「花柄／花」は、新庁舎に彩りを与える、まさに開庁祝いです。

パッチワークを使った布は、かつて誰かが身に着けていた古着で、よく見ると全て花柄！パーゴラ内に配された花びらの間を通り抜けることで、人々の生活、日常を思う。庁舎にあるアート空間ならではの時間を楽しんでください。

赤松さんと同じく、開庁記念イベントを開催する5月11日には、シェアノマにてワークショップが開かれます。



Photo by Natsumi Kinugasa



《花柄／花》 Photo by Tsuyoshi Saito

展示風景：「六本木アートナイト2014」東京ミッドタウン (2014)

Profile

1982年奈良県生まれ。美術家。装いの行為とコミュニケーションの関係性に着目したアートプロジェクトを国内外で展開する他、ファッションブランド「NISHINARI YOSHIO」を手掛ける。

パーゴラに展示するアート作品は、常設展示、企画展示の他、公募による区民展示などをおこなう予定です。詳細が決まり次第お知らせします。今しばらくお待ちください。